

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営                    | 項目数 |
| 1. 理念の共有                       | 11  |
| 2. 地域との支えあい                    | 2   |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用          | 1   |
| 4. 理念を実践するための体制                | 3   |
| 5. 人材の育成と支援                    | 3   |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援          | 2   |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応      | 1   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援      | 1   |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント  | 6   |
| 1. 一人ひとりの把握                    | 1   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2   |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援              | 1   |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働    | 2   |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援      | 11  |
| 1. その人らしい暮らしの支援                | 9   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり        | 2   |
| 合計                             | 30  |

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 事業所番号 | 4670201088                  |
| 法人名   | 医療法人 卓翔会                    |
| 事業所名  | グループホーム 遊雅の郷                |
| 訪問調査日 | 平成19年11月8日                  |
| 評価確定日 | 平成19年12月12日                 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島 |

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

|       |                                        |
|-------|----------------------------------------|
| 事業所番号 | 4670201088                             |
| 法人名   | 医療法人 卓翔会                               |
| 事業所名  | グループホーム 遊雅の郷                           |
| 所在地   | 薩摩川内市入来町浦之名786番地<br>(電 話) 0996-21-4500 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島            |
| 所在地   | 鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号                  |
| 訪問調査日 | 平成 19年 11月 8日                          |

【情報提供票より】(平成 19年 10月 24日事業所記入)

(1)組織概要

|       |                  |                      |      |
|-------|------------------|----------------------|------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 16年 12月 1日 |                      |      |
| ユニット数 | 2 ユニット           | 利用定員数計               | 18 人 |
| 職員数   | 16 人             | 常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 | 15人  |

(2)建物概要

|      |        |       |       |
|------|--------|-------|-------|
| 建物構造 | 木造造り   |       |       |
|      | 1 階建ての | 1 階 ~ | 1 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                |                |          |
|---------------------|----------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額)            | 30,000 円       | その他の経費(月額)     | 12,000 円 |
| 敷 金                 | 有( 円)          | (無)            |          |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 円)<br>(無)   | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無    |
| 食材料費                | 朝食             | 円              | 昼食 円     |
|                     | 夕食             | 円              | おやつ 円    |
|                     | または1日当たり 900 円 |                |          |

(4)利用者の概要(10月 24日現在)

|       |           |      |      |    |      |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名      | 男性   | 5 名  | 女性 | 13 名 |
| 要介護1  | 8 名       | 要介護2 | 10 名 |    |      |
| 要介護3  | 名         | 要介護4 | 名    |    |      |
| 要介護5  | 名         | 要支援2 | 名    |    |      |
| 年齢    | 平均 80.7 歳 | 最低   | 57 歳 | 最高 | 90 歳 |

(5)協力医療機関

|         |                  |
|---------|------------------|
| 協力医療機関名 | 市比野記念病院 まつもと歯科医院 |
|---------|------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

|                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 入来町の郊外に建てられたホームは、季節感を感じることのできる木造の温かみのある造りとなっている。軽費老人ホーム、地区コミュニティセンター、職業能力開発校などが周辺にあるため、環境が整備されており、入居者は毎日散歩を楽しんでいる。運営面においては、母体医療機関を中心に医療連携がとれており、ホームに居ながら安心して暮らすことが可能となっている。また、サービスの質の向上のため職員の研修にも特に力を入れているホームである。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【重点項目への取り組み状況】

|       |                                                                                                                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)                                                                                                                                 |
|       | 前回の外部評価による指摘事項はない。                                                                                                                                                   |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)                                                                                                                                          |
|       | 管理者による自己評価項目の説明を行った上で、職員全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価終了後、すぐに結果に関する説明が行われ、全員でその内容を共有している。また、その内容を基に、必要に応じた具体的な改善が実施されている。                                                      |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)                                                                                                                           |
|       | 運営推進会議では、アクシデントの発生状況やその対策等について毎回報告され、市の担当者等を中心に話し合いが行われている。また、ご家族からも意見や要望が出され、サービスの質向上に活かされている。                                                                      |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)                                                                                                                                |
|       | ご家族の訪問時、家族会、運営推進会議などを利用して、ご家族から意見、不満、苦情等を聞いている。ネームプレートを付けていないスタッフがいる等の指摘があり、早速職員に指示し改善したこともある。また、苦情等申立先として第三者委員や行政機関、その他の苦情受付機関も明示し、外部者へ表せる機会を設けている。                 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)                                                                                                                                             |
|       | 地域の文化祭に参加し、認知症に関する相談コーナーを開設している。ホーム入居後も、それまで本人が暮らしていた地区の会合に出席したり、地域の活動に職員ともども積極的に参加している。また、ホームが主催する夕涼み会に近所の親子会が参加したり、七夕やクリスマスの時期に飾り付けにホームを訪れるなど、地元の人々との交流が盛んに行われている。 |

## 2. 評価結果(詳細)

( ☐ 部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項 目                                                                                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                     | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                     |      |                                  |
| 1. 理念と共有              |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                     |      |                                  |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 運営者、管理者、職員が一緒に話し合い、ホーム独自の理念を作り上げている。                                                                                                                                |      |                                  |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 入職時のオリエンテーションにおいてホームの理念について説明を受けると共に、定例的に開催される職員会議等で勉強会を実施している。また、理念の根幹を成す尊厳と笑顔に関しては、申し送りやケアの現場でその都度教育している。                                                         |      |                                  |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 地域の文化祭に参加し、認知症に関する相談コーナーを開設している。ホーム入居後も、それまで本人が暮らしていた地区の会合に出席したり、地域の活動に職員ともども積極的に参加している。また、ホームが主催する夕涼み会に近所の親子会が参加したり、七夕やクリスマスの時期に飾り付けにホームを訪れるなど、地元の人々との交流を盛んに行っている。 |      |                                  |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |                                                                                         |                                                                                                                                                                     |      |                                  |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 管理者による自己評価項目の説明を行った上で、職員全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価終了後、すぐに結果に関する説明が行われ、全員でその内容を共有している。また、その内容を基に必要に応じた具体的な改善を実施している。                                                       |      |                                  |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議ではアクシデントの発生状況やその対策等について毎回報告され、市の担当者からも積極的に意見が出されている。また、ご家族からも意見や要望が出されサービスの質向上に活かされている。                                                                       |      |                                  |

| 外部              | 自己 | 項 目                                                                                                  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                      | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 介護保険更新申請時や各種手続きで市担当者を訪問する機会が多い。また、隣接するコミュニティセンターを市の担当者が訪れる際、色々な相談を行ったり、市より実習生(保健師)の受入を相談されたりと日々連携を図っている。                                             |      |                                  |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |                                                                                                      |                                                                                                                                                      |      |                                  |
| 7               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | 毎月の請求書送付時に、入居者の日々の様子を写した写真や担当スタッフからの手紙、預かり金出納帳の写しを同封している。また、計画作成担当者の異動等も書面にてご家族へ報告している。その他、遊雅の郷便りを年4回発行し、入居者の暮らしぶりを伝えている。                            |      |                                  |
| 8               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | ご家族の訪問時、家族会、運営推進会議などを利用して、ご家族から意見、不満、苦情等を聞いている。ネームプレートをつけていないスタッフがいる等の指摘があり、早速職員に指示し改善したこともある。また、苦情等申立先として第三者委員や行政機関、その他の苦情受付機関も明示し、外部者へ表せる機会を設けている。 |      |                                  |
| 9               | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 運営者は、職員の異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。やむを得ず異動が発生した場合でも、入職間もない職員には必ずベテランの職員を付けて指導にあたるなど、入居者へのダメージが最小になるよう配慮している。                                             |      |                                  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |                                                                                                      |                                                                                                                                                      |      |                                  |
| 10              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | ホームで行われる勉強会の他、母体法人が開催する研修や地域で開催される認知症介護を考える会の勉強会等に積極的に参加している。また、介護福祉士やヘルパーなどの資格取得に向けた取り組みに対して勤務調整を行うなど、職員を育てる取り組みが実施されている。                           |      |                                  |
| 11              | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 地域の同業者で組織する認知症介護を考える会において、定例的に勉強会を開催したり情報交換を行っている。また、関連のグループホームとは職員の相互訪問等も実施するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。                                                  |      |                                  |

| 外部                                 | 自己 | 項 目                                                                                                    | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                       | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |                                                                                                        |                                                                                                                       |      |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |                                                                                                        |                                                                                                                       |      |                                  |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 原則、入居前には本人やそのご家族に施設見学をしていただき、入居されている方の実際の様子を見ていただいたり、職員や他の入居者と一緒にお茶を飲むなど、少しでも本人が安心、納得した上でホームでの生活に移行できるよう工夫している。       |      |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |                                                                                                        |                                                                                                                       |      |                                  |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | 芋掘りや梅干作りなど、入居者のこれまでの経験から職員も学ぶ機会が多く、ホームにおいて支え合いながら過ごす関係を築いている。                                                         |      |                                  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |                                                                                                        |                                                                                                                       |      |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |                                                                                                        |                                                                                                                       |      |                                  |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                                           | 入居者本人と個別に話をする機会を多く持ち、表情からの読み取りを含め、それぞれの思いや意向の把握に努めている。また、本人からの把握が困難な場合には、ご家族と話し合いながら、極力本人の意思に添えるよう支援している。             |      |                                  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |                                                                                                        |                                                                                                                       |      |                                  |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | 担当者が毎月、課題に対する援助目標の達成度や、援助目標に対するサービスの妥当性、今後の課題等を「モニタリング表」を用いて報告し、計画作成担当者及び管理者とともに検討した後、入居者本人やそのご家族と話し合いながら介護計画を作成している。 |      |                                  |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 毎月のモニタリング実施のほか、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。また、見直し時期以前であっても入居者の状況の変化に伴い必要に応じて随時、担当者、計画作成担当者及び入居者本人やそのご家族と話し合いながら計画の見直しを行っている。  |      |                                  |

| 外部                          | 自己 | 項 目                                                                                         | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                              | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援           |    |                                                                                             |                                                                                                                              |      |                                  |
| 17                          | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 医療連携体制がとられるとともに、協力医療機関と協力しながら嚥下訓練を含む機能訓練を受けられるよう支援したり、医療処置を受けながらホームでの生活を支援するなど多機能性を活かした支援を実施している。                            |      |                                  |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 |    |                                                                                             |                                                                                                                              |      |                                  |
| 18                          | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 本人及びそのご家族の意向を尊重し、それぞれが希望するかかりつけ医の適切な医療を受けられるよう支援している。                                                                        |      |                                  |
| 19                          | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居の際、重度化した場合や終末期のあり方について説明するほか、入居後状態の変化が生じた際など必要に応じ、本人やご家族ならびにかかりつけ医と話し合い、再度重度化した場合や終末期のあり方について説明し同意を得、職員を含め関係者全員で方針を共有している。 |      |                                  |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援   |    |                                                                                             |                                                                                                                              |      |                                  |
| 1. その人らしい暮らしの支援             |    |                                                                                             |                                                                                                                              |      |                                  |
| (1)一人ひとりの尊重                 |    |                                                                                             |                                                                                                                              |      |                                  |
| 20                          | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | それぞれの誇りやプライバシーを損なうことのない様、介護計画の中で個別具体的に対応方法を決めている。また、個人情報に関しても個人情報保護規定に基づき適切に取り扱っている。                                         |      |                                  |
| 21                          | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 職員やホームの都合を優先することなく、買い物や散歩、入浴など可能な限り入居者のペースに合わせ、希望にそった生活を送れるよう支援している。                                                         |      |                                  |

| 外部                            | 自己 | 項 目                                                                             | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                       | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |    |                                                                                 |                                                                                                                       |      |                                  |
| 22                            | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | ホームの庭で栽培している野菜を採ってきてもらったり、一緒に料理や下ごしらえをするなど、入居者と職員と一緒に準備や食事、後片付けを行い、楽しく語らいながら食事を行っている。                                 |      |                                  |
| 23                            | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 曜日や時間帯等の制限を設けず、入居者の希望に応じて入浴を楽しむことができるように声掛けや誘導を行っている。                                                                 |      |                                  |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |                                                                                 |                                                                                                                       |      |                                  |
| 24                            | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 裁縫の得意な方に雑巾の縫い方を教えていただいたり、昔農業をしていた方に芋掘りを手伝っていただいたりと、それぞれの生活歴や得意なことを活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。                          |      |                                  |
| 25                            | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 軽費老人ホームやコミュニティセンター、障害者職業能力開発校などホームの周辺は環境が整備されており、入居者は毎日散歩を楽しんでいる。また、花見やいちご狩り、外食など戸外に出かけるような行事の工夫も行っている。               |      |                                  |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |                                                                                 |                                                                                                                       |      |                                  |
| 26                            | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 日中、居室や玄関に鍵をかけることは無い。管理者をはじめ職員が鍵をかけることの弊害を十分認識しており、見守りに徹し、入居者が外出を希望する際は一緒に外出するなどして対応している。                              |      |                                  |
| 27                            | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 年2回、入居者も参加する避難訓練を実施し、入居者が安全確実に避難できる方法を身につけている他、地域の防災会議に参加し、消防関係者や自治会長に協力を要請している。何より、消防署がホームに隣接していることにより、大きな安心感が感じられる。 |      |                                  |

| 外部                         | 自己 | 項 目                                                                                                       | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                             | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |                                                                                                           |                                                                                                             |      |                                  |
| 28                         | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 食事や水分の摂取に関しては、体温・血圧・尿・入浴等と共に「検温表」にて個別にチェックしている。また、母体法人の栄養士会議に管理者及びホームの栄養委員が出席し、献立のチェックを受け栄養バランスなどの指導も受けている。 |      |                                  |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり    |    |                                                                                                           |                                                                                                             |      |                                  |
| (1) 居心地のよい環境づくり            |    |                                                                                                           |                                                                                                             |      |                                  |
| 29                         | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者が集う居間・台所・食堂が配された共有空間は、日当たりや風の通りが良好である。また、中庭の草木をそこから眺めることができ、季節感を常に感じる事ができる造りとなっている。                      |      |                                  |
| 30                         | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 居室には神棚や位牌の他、使い慣れた布団や座椅子等が持ち込まれ、入居者が居心地よく過ごすことができるように工夫されている。                                                |      |                                  |